

4班 「行政や市町教育委員会との関わり方」

解 決 策

- とにかく行政には協力するようにして、こちらの意見も聞いてもらえるように心がけている
- 教育委員会とは話をする機会を多くとるようにしている。
- **学校＝地域コミュニティ**の考え 行政もこれを理解していく。地域コミュニティのための会議なら行政に意見できる。
- コミュニティスクール制度の活用→人選で内容が大きく変わる
スクールコミュニティ 学校を中心にした繋がり→ 進めたらいいね！
- 必要ないと思われるあて職は断る？→出たくないあて職の会議は出ない。
→優先順位をつけて、重要なあて職だけ出席する。
- あて職については、会長ばかりにならないように、連合会内でうまく担当分けをしている。
- P連の定期会合にて、(行政)と(P T A会員)の共通課題と情報を共有(資料を配布)する。
- 単会で具体的に行動し、実践する。
- 市によってそれぞれ行政の動きが違うので驚いた。コミュニケーションを多くとれると良いと思った。
- バックデータ、アンケート(会員の声)を基に行政(長/各課)とコミュニケーションを行い、施策を実現する？
- 学校設備などの改修や設置は市長のやる気でしょう！できる市長に当選してもらいましょう。

課 題

- 4月より全校ココフレ活動について動いている。
- 教育委員会が新しいことを始める時に、前もって相談がなかった。
- 町行政が求めているP T Aの役割が、書く公に伝わっているのか？
- 町P代表としても、本当に町Pとしての意見になっているのか？
- 在籍年数が長い方、短い方で行政等に伝えたい内容が色々異なる気がする。
- 少子化により、園児数の確保ができない園の合併をお願いしているが、現状のまま。
- 行政の委員会等に参加させられることが多い。
- 一年毎に交代する連P会長が、行政の会議にあて職として役員で出席することに対して、違和感を覚えた。
- 教育委員会の範囲を超える自治体行政(予算)にかかる課題の解決
- 教育委員会の各課の事業(いじめ防止。地域連携、公民館等)と、単Pとの課題共有の限界
- 全校P T Aとの合同事業に際する、各学校日程の調整(学校行事との兼ね合い)
- 児童・生徒数の減少にともない、学区や通学路などの課題が出ている。
- 行政・市教委もお金がないので、なかなかP T A及び学校からの要望が通らない。
- 北本市P連では年2回の役員研修会の中で、1回は市教委との意見交換会(懇談会)を開催している。小学校8校と中学校4校の会長と教育委員会各部です。
- 学校給食について、給食費、食材、提供量など。